



第2号

IPPO

はじめの一步の会

平成23年3月25日発行

この号の内容

- はじめの一步の会 設立趣旨1
- 住みなれた町へのイメージ アンケート結果から広報部会1
- 活動実績①外出しました 会員 小藤操子2
- 活動実績②看護学生の視点から 会員 川野嘉子2
- 研修会実績①在宅で父を看取る 会員 石川陽一3

- 研修会実績②バリアフリーは今 会員 岸本裕子3
- 協働活動実績①浜離宮ボランティア活動 宅間和子4
- 協働活動実績②子どもとためす環境まつり 川名一榮4
- 協働活動実績③シンポジウムに参加 人形町保育園見守り隊 篠原良子4
- 広報部会より

はじめの一步の会 設立趣旨

伝統とダイナミズムが共存する豊かな水の街・中央区。この町の魅力をフルに活用し、住みなれた地域で死ねるまちづくりを目指して区民の力が結集し、「はじめの一步の会」が誕生しました。「はじめの一步の会」は2007年4月に発足し、区民と聖路加看護大学との協働プログラムと

して運営されています。町は人を育む大切な場所。それは安全で健全、そして何よりも住む人が愛着を持つ特別な場所です。そこに住む人々の交流を通して人間関係が生まれます。この人間関係を育むために私たちは活動を行っています。

住みなれた町へのイメージ アンケート結果から

中央区に“今後も住み続けたい”と思っている人々と“出来れば住み続けたい”とお考えの方々が約85%も居ると言うデータがあります。一方、私たちの会が標榜する“住みなれた町で最期を迎えたいとする”“町”があります。一体、どのようなイメージの町なのでしょう。昨年の“子どもとためす環境まつり”への参加をキッカケに“町のイメージ”についてのアンケートを継続実施しています。詳細な分析や統計的な裏付けにはもう少しデータが必要ですが、今回は中間発表と言うことで要点をお伝えいたします。

質問は6問で①安心して住める町のイメージ②自分の町が一番と思うこと③外に出て気分良い町のイメージ④子どもたちの将来に向けて安心な町のイメージ⑤お年寄りや仲良く暮らす町のイメージ⑥地域の人々の関係が良い町のイメージについて各9項目ぐらいから重要な要素だと思う事項を3点選んでいただきました。6つの質問に対する上位3位までの回答の要約を右欄に表示します。



質問

家族といつまでも安心して住める町



毎日の生活や自分の家がある地域が一番



外を歩いて気分が良い町



子どもたちの将来が安心な町



お年寄りや仲良く暮らす町



お隣や地域の人々との関係が良い町



回答

事件・事故・犯罪がなくイザと言う際の病院が近くにあり、高齢者が安心して暮らせる町

誰もが“生きがい”を感じ、町の作りが安全で排気ガスなどの公害がない町

町全体に活気があり、雰囲気明るく、緑が満ち溢れている町

赤ちゃんとお母さんが安心して居られる空間があり、地域の環境が整備されている町

町の表示などが判り易く、不自由な部分を支援してくれる人が近くに居る町

近隣同士が気軽に挨拶が出来て、一寸したことの相談や協力に応じてくれる町



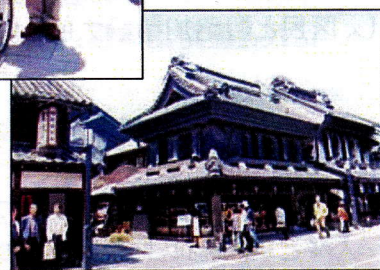
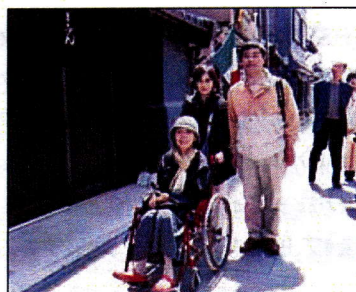
活動実績① 利用者の方と外出しました

利用者の皆さんとお話相手などの他に状況を見て外出するなどの活動も実施しています

会員 小藤 操子

ご利用者の田仲たか子さんのご希望で中央区身体障がい者福祉団体連合会主催の日帰りバス旅行に同行しました。今回の旅行企画は、7月4日(日)、河口湖ラベンダー畑鑑賞と石和温泉昼食・入浴・休憩という内容でした。水天宮前午前7時30分集合でした。当日は多少、事前のお手伝いがあるので6時30分に田仲宅に伺いました。雨が降りそうな空模様のため渡辺さんが集合場所まで送ってくれました。予定より多少の遅れで出発、参加者59名、スタッフ8名計67名のツアーで、車いす利用者3名、バス2台。2号車はリフト付きでした。車中ではお菓子、飲み物、おにぎりの配布があり、皆さん和やかに歓談したり、車窓の景色を眺めたり思い思いに過ごされました。田仲さんも旧知の方と言葉を交わされ楽しそうでした。心配されたお天気も走るほどに快晴となり、ラベンダー畑は暑く日陰に入って休憩。時間がタププリで多少時間をもてあまし気味でした。又、石和温泉の昼食・入浴休憩は入浴される方が少なく、ホテルの周りで田仲さんと何とは無しにボーと過ごしました。帰りのサービスエリアでは

多数の観光バスが一緒になり、障がい者用のトイレでは年配者の方々が列を作り、順番を待たなければ使用出来ませんでした。その上に渋滞に巻き込まれコースを変えて走行しましたが、水天宮前への到着は20時45分(予定18時30分頃)。田仲さんのご帰宅は21時ごろになってしまいました。それでも私にも気遣いをされた田仲さんは、久しぶりの旅行で大変お疲れだったと思いますが、最後には「楽しかった」とおっしゃっていただきました。



活動実績② 看護学生の視点から

聖路加看護大学学士14回生 川野 嘉子

「はじめの一步の会」は聖路加看護大学と中央区民の協働プログラムで「家で死ねるまちづくり」を目指していることを知り、興味を持ち、学生と言う立場で参加させていただいています。近年、独居高齢者の増加に伴い孤独死が問題となっており、問題解決の一端を担う「“大きな一步”の会」でもあると魅力を感じています。「はじめの一步の会」の主な活動内容は、地域の独り住まいの高齢者のお宅を訪問するなどの活動を通じ、住みなれた中央区で最期まで生活することの実現を目指してサポートをしています。独居高齢者が安心して生活出来る町づくりには、地域住民の協働が欠かせません。健康問題に熟知した看護師やケアマネ、同じ区内で生活している地

域住民等がご自宅を訪問し、最期まで自宅で生活する為の支援をしてくれたならば、安心して地域の中での生活を続けられる高齢者は多いと思います。「はじめの一步の会」がその役割を担う存在になれるよう、月に一度の定例会で会員が一丸となり、近況報告を通じ、区内の情報や活動内容の共有、今後の課題や取り組みの話し合いがなされています。会員全員が真摯に取り組む姿にいつも感動すると同時に、一人ひとりの思いが通じ「家で死ねるまちづくり」の実現が進みつつあることを実感しています。看護学生としての私は地域住民、看護師、ケアマネ、高齢者など多くの方々の行動や発言から問題点や取り組むべき課題を見出し、会員の皆さんとご一緒に多くのことを学ばせていただいています。



研修会実績① 在宅で父を看取る

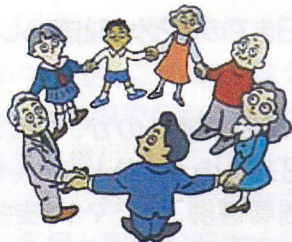
石川さんには永年東日本橋にお住まいだったお父様の在宅介護のお話を聴かせていただきました。

ゲスト講演者 千葉県在住 石川 陽一

この度の地震、津波で被災された方々のことを思うと、自宅で息を引きとる事が出来た父は本当に幸せだったと思います。もし、送電が止まったら、、、父の酸素マスクは、もし、オムツなど医療医薬品が手に入らなかった、、、もし、水が使えなかったらなどと考えると、何ひとつ欠けても冷や汗が出る思いです。今まさに何もかもが不足している状態の被災地域で介護されている方々やご家族の方々のご苦労は、想像を絶するものがあり、

頭が下がる思いです。

今思えば、恵まれた環境?(普通ですが)の中で父の介護が出来たことは大変有り難く思っています。又、主治医の先生をはじめ、ケアマネ、介護士の方々、訪問看護師の方々、ご近所の方々の支援の連携プレイがあったればこそ、私ども家族も励まされ、知恵をつけて頂き自宅にて父を看取ることが出来たと思っています。すべてにおいて地域支援の連携の輪のお陰だと感謝しています。



研修会実績② バリアフリーは今

ゲスト講演者(社)東京建築士会 岸本 裕子

昨年、公共交通機関を利用した高齢者の移動空間に関する調査報告をこの会で発表させていただきました。日本の交通機関におけるユニバーサルデザインは法的整備に伴い、世界的に見てもかなり進んできていますが、外出に対する不安を取り除き、可能な限り自立的な生活を継続し、社会参加や交流が出来る環境を提案して行くことが今後益々大切であると思います。

現在バリア部会では、人はまず視覚から情報を得ることを踏まえ、屋内外で危険や負担がどれだけ



潜んでいるのか、銀座や晴海で視界黄変化の疑似体験のワークショップなどを行い検証しています、私たち建築士の視点だけでなく、当会のような各種専門家、地元住民の方々にもご意見をお聴きし、今後も調査を進めて行きたいと思います。



協働活動実績① 浜離宮ボランティア活動に参加

会員 宅間 和子

浜離宮の黄菖蒲退治はやっと2回目の私、身拵えが少しましになって来た。日本の花菖蒲との見分けは蕾に色が出てからという。そして、水の中に足を踏ん張って、きっちり根まで抜かないと、来年同じぐらい繁茂する強い生命力の黄菖蒲なのだそう。顔付きまで鬼になって抜きまくっていたら、

通りすがりの人から「何で抜いちゃうんですか」と声。で、外来種退治なのだと説明。知ったか振りが照れ臭い。実は疎開先での田植えの記憶の、どろどろ感触が懐かしいのだ。緑に飢えているせいかも知れない。僅かな時間の作業ながら幸せな充足をいただいて帰ってきました。



協働活動実績② 子どもとためす環境まつりに参加

会員 川名 一榮

平成22年10月9日、第7回子どもとためす環境まつりが中央区立佃島小学校の協力や多くの応援をいただき開催出来ました。一步の会の皆様にもお力をいただきありがとうございました。当日は、あいにくの雨模様にもかかわらず多くの方々が来場されました。そして、将来を担う子どもたちも各ブースでの体験に真剣に取り組んでいました。沢山の体験の中から一つでも心に残る

ものがあつたら良いなあ思います。高齢者の住める町にはどうしたら良いのかを考えるきっかけくりになれば「一步の会ここにあり」ですね。



協働活動実績③ シンポジウムに参加・人形町保育園見守り隊

第5回30年後の医療の姿を考える会“メディアカルタウンの住まい方”“最期の日までの家とケアと暮らし”のシンポジウムに篠原会長が参加されました。コメントです。

会長 篠原 良子

“家族が暮らす家や住みなれた場所で、最期を迎えたい”そう願う人が多いにも関わらず、現実はまだまだ難問だらけです。在宅で、医療や介護など必要なケアを受けながら、自分らしく生活するために必要なこととは何でしょうか。もちろん本人や家族の意思、又独り暮らしでも可能となるシステムが必要とされます。在宅ケアは、先ず対象となる方がどんな人生を送ってこられたのか、生涯の背景を“「看」て”“「知」る”ことから始まります。次に病気や障害を抱えたそこに起きる「状況を良く見る」「話を良く聴く」といった活動を通して信頼関係を築き、本人、家族、訪問看護師らとの在宅介護の共同作業に移って行きます。

その中で利用者の方が何を望むのか、それをどのように支える事が出来るのか。本人・家族を取り巻く医師、病院、訪問看護師、ケアマネ、支援センター、近隣ボランティアなど横の繋がりが一つのチームとなって支えあって行くことが重要です。これまで福祉の町づくりは、高齢者・障がい者を対象として「バリアフリー」の視点から多くが進められて来たように思います。ゴールは同じですが、以上の点や今回の震災経験も踏まえ、これから「ユニバーサルデザイン」の考えも含めて、出来るだけ多くの方々が快適に利用可能となるような“住環境”を「地域力」と結びつけ、ハードとソフトの面から進めて行くことの必要性を感じています。

コーディネートの大切さ(人形町保育園の見守り隊)

見守り隊のお話を中央区社会福祉協議会様からいただく。はじめの一步の会にて検討、橋渡し役として試みました。地域の方に(見守り隊)を依頼し、行政の子育て支援課、保育園との話し合いを持ち、役割は何か、出来ることからスタート。園児の移動の際の安全管理等、この施設は複合施設になっています。保育園、認知症のグループホーム区民館、自然とお互いに顔見知りとなり、温かな雰囲気があります。園児たちも私たちを待っていてくれます。子どもの成長の糧が判り自立して行く様子に目を見張ります。橋渡しに役立ち、地域づくりの大切さを感じています。今日も見守り隊の方々が若草色のジャンパーと黄色の旗をなびかせて見守っています。



広報部会から

○編集後記

東北大震災の被災者の皆さんへのお見舞いと不幸にして亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

人間と自然が妥協することは絶対に有り得ないことを改めて再認識しました。中央区内でも小さな傷跡が沢山残りました。もう一度防災対策を見直してください。

会 報:IPPO

編 集:広報部会

発 行:はじめの一步の会

住 所:中央区日本橋浜町1-6-1

電話・Fax:03-3851-7431

発 行 人:篠原 良子